

日本ハラールサイエンス学会

Japan Society for Halal Science and Technology



2021 年度 日本ハラールサイエンス学会 シンポジウム・研究大会

日時：2021 年 11 月 19 日（金）13:00～17:30

13:00 ～ 14:35 第 1 部 一般講演

15:00 ～ 17:30 第 2 部 特別企画 国際シンポジウム

オンライン：Zoom ウェビナー

日本ハラールサイエンス学会

プログラム

【第 1 部】一般講演

13:00 - 13:05	開会挨拶	日本ハラールサイエンス学会 会長 大阪大学 産業科学研究所 特任教授 民谷 栄一
13:05 - 13:35	基調講演	日本ハラールサイエンス学会 理事 静岡県立大学 特任教授・副学長 富沢 寿勇 「SDGs とハラール産業」
13:35 - 13:55	一般講演	大阪府立大学 准教授 矢澤 彩香 「日本在住ムスリムの災害時の食に対する意識について」
13:55 - 14:15	一般発表	SALAM117 株式会社 代表取締役社長 菅野 幸介 「日本企業が今年中にハラール市場で売るための方策～事例紹介～」
14:15 - 14:35		麗澤大学大学院経済研究科 ポストドクター 藤原 達也 「ハラール食品産業における日本の中小企業の国際化に関する予備的調査」

(各質疑 5 分を含む)

基調講演 「SDGs とハラール産業」

静岡県立大学特任教授・副学長、日本ハラールサイエンス学会理事

富沢 寿勇

「持続可能な開発目標 (SDGs)」(2015 年、国連採択)は、2030 年に向けての国際社会の行動指針を示すもので、行政や企業の社会的責任にも一定の拘束力を持ち始めている。一方ハラール産業に関しては、SDGs の考え方が「イスラーム法の目的(目標)」「マカーシド・シャリーア)の中に元来備わっていると、ハラールの国際規格化を SDGs に向けて整備するのが最善で最速の道だと主張する者もいる。しかし話はそれほど単純でもない。第一に、ハラール産業も SDGs も立脚する資源観が異なる。第二に、どちらもサプライチェーン、バリューチェーンを重視するのは一致しているが、資源の調達や運用時に受ける一定の価値観による制限のあり方は必ずしも一致しない。第三に、どちらも規格化、標準化が進行しているが、それも併行して独自に展開している。本講演では、SDGs の目標 12 に焦点を当てて両者の関係が今後進み行く可能性を検討する。ハラール規格はさまざまな国際規格を取り込んで構築されてきたが、今後はさらに SDGs の国際規格も取り込んで行く方向が一つ、また逆に、SDGs 側がその規格化過程でハラール規格を取り込んで行く方向がもう一つ考えられる。総じて、SDGs では経済、環境、社会の統合的な対応が求められ、そのための科学技術イノベーションが期待される。ハラール産業も同様と言える。その意味では自然科学と人文社会科学の異分野横断的で総合的なアプローチが一層要請されて行く。

講演 「日本在住ムスリムの災害時の食に対する意識について」

大阪府立大学 准教授 矢澤 彩香

本研究では、日本在住ムスリムを対象に、災害時の食に対する考え方などについての調査を行なった。豚や豚派生品、アルコールを含む調味料含有食品、ハラール屠畜でない肉、調理・提供過程におけるハラームとの接触の有無が確認できない食品、調理済みで原材料が確認できない食品のいずれについても「生命の危険がある場合でも許容しない」という者がいた一方で「災害時で生命の危険がある場合は許容する」という者がおり、個人差がみられた。このことから、避難所でのムスリムの食支援を考える際には一様の対応ではなく、柔軟性のある対応が求められると考えられた。

一般発表 「日本企業が今年中にハラール市場で売するための方策～事例紹介～」

SALAM117 株式会社 代表取締役社長 菅野 幸介

1: 日本国内ハラール市場の現状とハラール取得済日本企業の現状 在日ムスリム市場の掴み方

インバウンドが止まった2020年以降も在日ムスリム向け市場は拡大を続けていますが、日本企業からは「売れなくなった」という声を多く聞きます。成功している企業と、そうでない企業の違いは何なのか。開始わずか1年で3000万円の年商を達成した、片田舎のハラールショップ SALAM117 の成功の秘訣から日本企業の成功方程式をシェアします。

2: メイドインジャパンxハラール商品の海外展開成功手法

インバウンドが期待できない今でも、SALAM117 は海外販路を増やし続けています。その手法と、日本企業でも参加でき、今すぐ販売可能となる施策についての紹介を行います。

一般発表 「ハラール食品産業における日本の中小企業の国際化に関する予備的調査」

麗澤大学大学院経済研究科 ポストドクター 藤原 達也

日本の中小企業は、人口減少による国内市場の縮小という問題に直面している。一方で、世界のムスリム人口の増加に伴い、その市場の拡大は続いている。このような状況の中、これまでに、ハラール食品産業における日本の中小企業の国際化を対象とする研究は、ほとんど行われてこなかった。そこで、本研究は、ハラール食品産業における日本の中小企業の国際化のプロセスを明らかにするため、先行研究の分析視点を活用し、小規模企業のケーススタディを行った。その中では、特に、国際的企業家志向性(International Entrepreneurial Orientation: IEO)に着目した。分析の結果、次の3点が明らかとなった。第1に、社長が積極的にハラール食品事業の情報を収集し、適切な組織体制を構築したことから、IEOは、ハラール食品産業における日本の中小企業の国際化を導く重要な要因であること。第2に、日本のハラール産業は中小企業の国際化の障壁となっているため、海外のイスラム市場への参入にはOEM(Original Equipment Manufacturing)が有効であること。第3に、ハラール認証の取得において、ハラール食品のための原材料を調達するため、調達のイノベーションが不可欠となることである。

日本ハラールサイエンス学会
Japan Society for Halal Science and Technology

【第2部】特別企画 国際シンポジウム

THE FIRST INTERNATIONAL SYMPOSIUM OF JAPAN SOCIETY FOR HALAL SCIENCE AND TECHNOLOGY

“SCIENCE AND TECHNOLOGY IN MEDICINE: CONNECTING WITH HALAL”

In collaboration with Osaka University ASEAN Campus

Co-Host: Center for Global Initiatives, Osaka University

JST	PROGRAM
3.00-3.05 pm	Opening: Professor Dr. Quamrul Hasan, The Symposium Organizing Committee Chair; Specially Appointed Professor, Center for Global Initiatives, Osaka University
3.05-3.10 pm	Welcoming remarks: Professor Dr. Eiichi Tamiya, Chairman, Japan Society for Halal Science and Technology; Specially Appointed Professor, SANKEN, Osaka University
3.10-3.40 pm	Keynote speaker's presentation: “Novel Vaccine Development in Japan” Professor Tatsuo SHIODA, Research Institute for Microbial Diseases, Osaka University, Japan
3.40-3.55 pm	Invited speaker's presentation 1: “Halal Covid-19 Vaccine Manufacturing: How is it Possible?” Assoc. Prof. Nurina Anuar, Faculty of Engineering and Built Environment, Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM), Malaysia
3.55-4.10 pm	Invited speaker's presentation 2: “Antibody Treatments for Covid-19” Assoc. Prof. Anne Catherine Cunningham, Institute of Health Sciences, Universiti Brunei Darussalam (UBD), Brunei Darussalam
4.10-4.25 pm	Invited speaker's presentation 3: “Attraction of Marine Natural Products and Their Utilization in Drug Discovery” Prof. Masayoshi ARAI, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Osaka University, Japan
4.25-4.40 pm	Invited speaker's presentation 4: “Future Issues in Halal Medicine: Halality Assessment of Existing API” Prof. Daryono Hadi Tjahjono, School of Pharmacy, Bandung Institute of Technology (ITB), Indonesia

4.40-4.45 pm	Preparation for the panel discussion
4.45-5.25 pm	Panel discussion: Moderator: Professor Dr. Quamrul Hasan, Osaka University, Japan
5.25-5.30 pm	Closing remarks: Mrs. Hajah Normah Jamil, Collaborative Professor, Osaka University ASEAN Campus in Brunei Darussalam